

令和4年度（2022年度）防災避難訓練計画（晴天時）

1 目的

災害発生時における適切な処理と、安全かつ敏速な避難を行うことにより人身事故の防止を図るとともに、南稜高校防災マニュアル（P6）及び学校経営案（P86）を確認し、実践訓練を行うことで防災の知識、態度の高揚を図る。

2 日時

令和4年（2022年）12月13日（火）午前中（10分短縮日課）

3 訓練の流れ

※午前中どこかの時間帯に地震（マグニチュード7.1、震度5強、各ライフライン状況は不明）が発生し、その2次災害で火災が発生したと想定し、避難訓練を行う。なお、当日の日程は次のとおりとする。

9:00～9:40	1限目	} 午前中：防災避難訓練 (ブラインド訓練) 40分間
9:50～10:30	2限目	
10:40～11:20	3限目	
11:30～12:10	4限目	
<u>12:50～13:35</u>	<u>昼休み</u>	
13:35～14:25	5限目	} 通常授業
14:35～15:25	6限目	

※授業運営の都合上相談がある先生は竹本まで相談ください。

※非常勤の先生は教務主任より別途連絡します。

4 訓練の手順（生徒へは防災避難訓練があるということ以外は伝えない）

(1) 訓練用CDを用いた緊急地震速報受信（担当：金子ふ）

受信から地震収束までの身を守る行動をする。

(2) 地震発生及び火災確認

災害対策本部は地震がおさまった事と火災発生を放送（担当：事務部）で知らせ避難の指示をする。

火災（発生場所：生活経営科調理室）を確認し、事務長が消防へ緊急連絡の指示を事務職員に出す。

(3) 避難開始

避難場所は最も安全な場所を本部長が決定する。

安否確認・避難誘導班は火災発生時の対応をする（負傷者や避難出来ない通路などを設置する予定です）。

(4) 集合、点呼

ア 教科担任は、出席簿を持って最後に避難する。教科担任はクラスの点呼を行い、自らも含めて学年主任へ敏速・確実に報告（在籍数、欠席数、現存数）する。※HRなどは学級担任が点呼を行う。

＜例＞3A在籍14人、欠席1人、現在数13人、全員集合終わりました。

イ 学年主任は、教科担任からの報告を集約し、自らも含めて教頭へ敏速・確実に報告する。

ウ 職員は、自身の安否を事務長に報告する。

エ 事務長と教頭は、本部長へ敏速・確実に報告する。

(5) 避難完了（進行：浅野）

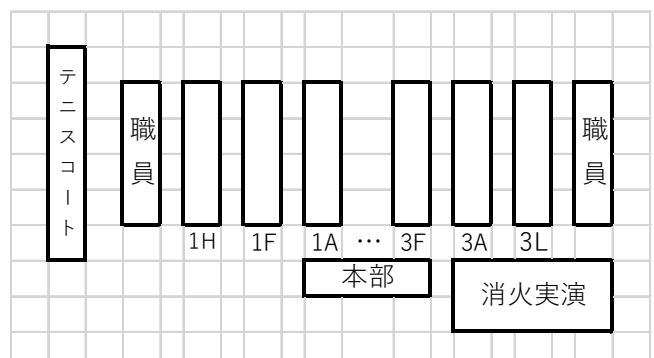
ア グラウンド集合。

イ 整列体系は全校集会と同じ。

ウ 消防署職員による講評

エ 校長による謝辞

オ 閉会、諸連絡（校内へ入る際の指導）



5 詳細（職員配付は3までの1ページのみ。防災マニュアルから）

※ 担当不在でも他の職員で臨機応変に対応できるように確認すること。

	担当者	内 容
通報 消火	第一 発見者 事務部 消火班	<p>1 11時35分発生。第一発見者は火災警報ベルを押し、事務に連絡をする。その後、火災に応じて初期消火または避難をする。火災現場に近い職員は屋内消火栓もしくは消火器を使用し消火を行う。</p> <p>消火班の職員は、屋内消火栓もしくは消火器を持って速やかに火災現場まで行き消火している現場職員と引き継ぐ。</p> <p>係りの生徒は、避難後必要に応じて担当の指示で初期消火を行う。</p> <p>※訓練では、省略し消火実技指導に代える。</p> <p>※訓練ではベルを押し、事務に連絡した後に初期消火状況を見て避難する。</p> <p>2 事務部は火災の状況確認に生活経営科調理室へ行き、近くの火災報知機の電話や近くの職員室の電話で事務室へ連絡する。</p> <p>3 事務長は火災の連絡を受け次第、消防署（119）へ緊急連絡の指示を事務職員にする。</p>
放送	事務部	<p>1 地震がおさまリ、火災が発生したと想定し、避難するように放送で指示する。</p> <p>【放送内容】（落ち着いて『 』内の言葉をゆっくり2回指示する） 『地震が収まりました。校舎の安全点検を行っています。しばらくそのまま待機してください。』 『生活経営科調理室で火災が発生しました。生徒は先生の指示に従って落ち着いて、速やかにグラウンドへ避難してください。』</p> <p>※地震の効果音は訓練用CD（担当：金子ふ）を用意する。</p>
安否 確認 ・ 避難 誘導	全職員	<p>1 緊急地震速報受信から地震がおさまるまでの対応</p> <p>「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ 屋内…頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所へ避難。 屋外…落石や倒壊などの被害を受けない安全な場所へ避難。</p> <p>2 火災発生時の対応</p> <p>放送の指示で、迅速にグラウンドに避難させる。（上履きのまま）</p> <p>（1）注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押さない、駆けない、喋らない、戻らない。（お・か・し・も） ・所持品は持たない。 ・手やハンカチで口を押さえ避難する。 ・車いすや松葉杖など避難しにくい人の避難補助をする。 <p>（2）職員の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ルートに立ち、生徒が安全に避難できるよう誘導。 ・教室やトイレに残っている生徒がいなか確認。 ・教室、廊下の窓は閉め、電気を消す。 <p>※訓練では、盗難防止のため、貴重品は持って出る。</p> <p>※避難経路の説明については、6に記載。</p> <p>※火災発生場所を避けて避難すること。</p>
消防 誘導	事務部	<p>消防車を火災現場まで誘導する。（経路は令和4年度学校経営案P.88）</p> <p>※訓練では、省略しグラウンドに避難。</p>

係	担当者	内 容
搬出	各学科 主任 3年生 (全クラス)	1 非常持出しの搬出 2 搬出後の監視・延焼等の監視 3 生徒は、避難後必要に応じて係りの指示で非常持出しの搬出を行う。 ※訓練では、省略しグラウンドに避難。
救護	岡野 橋口	負傷者の救護を行う。救急患者の場合は、病院に連絡する。 ※訓練では、省略しグラウンドに避難。

6 避難経路

地震による建物倒壊や二次災害の心配が少なく、火災発生場所にできるだけ近づかないような経路でグラウンドまで避難する。

7 実技指導

(1) 内容

上球磨消防署員による消火器を使った初期消火の実技指導、消火器・火元の準備（人吉防災）

(2) 対象

各科代表（1人）※代表は列の先頭に並ばせてください。

8 その他

(1) 閉会后誘導

係	内容及び担当者
閉 会 後 誘 導	1 昇降口（用意してある雑巾でスリッパを拭いて校舎に上がる） 昇降口指導（榎山・久川・原口・浜崎け）
	2 昇降口以外からの立ち入り禁止 A科職員室周辺指導（川田） 農業基礎実験室前指導（丸尾） 体育館便所前指導（池本） ※ 雑巾については総務部で用意する。

(2) 放送準備（グラウンドへの放送機器の設置・撤去） 担当 池田し・金子ふ

(3) 訓練時気象観測（天候・風位・風速・気温・湿度） 担当 竹本

(4) 関係機関への事前連絡 担当 竹本

上球磨消防組合消防本部 42-3181

人吉防災 24-0119

令和4年度（2022年度）防災避難訓練計画（雨天時）

1 目的

災害発生時における適切な処理と、安全かつ敏速な避難を行うことにより人身事故の防止を図るとともに、南稜高校防災マニュアル（P6）及び学校経営案（P86）を確認し、実践訓練を行うことで防災の知識、態度の高揚を図る。

2 日時

令和4年（2022年）12月13日（火）午前中（10分短縮日課）

3 訓練の流れ

※午前中どこかの時間帯に地震（マグニチュード7.1、震度5強、各ライフライン状況は不明）が発生し、その2次災害で火災が発生したと想定し、避難訓練を行う。なお、当日の日程は次のとおりとする。

9:00～9:40	1限目	} 午前中：防災避難訓練 (ブラインド訓練) 40分間
9:50～10:30	2限目	
10:40～11:20	3限目	
11:30～12:10	4限目	
12:50～13:25		} <u>12:50～13:25 昼休み</u>
13:35～14:25	5限目	} 通常授業
14:35～15:25	6限目	

※授業運営の都合上相談がある先生は竹本まで相談ください。

※非常勤の先生は教務主任より別途連絡します。

4 訓練の手順（生徒へは防災避難訓練があるということ以外は伝えない）

(1) 訓練用CDを用いた緊急地震速報受信（担当：金子ふ）

受信から地震収束までの身を守る行動をする。

(2) 地震発生及び火災確認

災害対策本部は地震がおさまった事と火災発生を放送

(担当：事務局) で知らせ避難の指示をする。

火災（発生場所：生活経営科調理室）を確認し、事務長

が消防へ緊急連絡の指示を事務職員に出す。

(3) 避難開始

避難場所は最も安全な場所を本部長が決定する。

安否確認・避難誘導班は火災発生時の対応をする（負傷者や避難出来ない通路などを設置する予定です）。

(4) 集合、点呼

ア 教科担任は、出席簿を持って最後に避難する。教科担任はクラスの点呼を行い、自らも含めて学年主任へ敏速・確実に報告（在籍数、欠席数、現存数）する。※HRなどは学級担任が点呼を行う。

＜例＞3A在籍14人、欠席1人、現在数13人、全員集合終わりました。

イ 学年主任は、教科担任からの報告を集約し、自らも含めて教頭へ敏速・確実に報告する。

ウ 職員は、自身の安否事務長に報告する。

エ 事務長と教頭は、本部長へ敏速・確実に報告する。

(5) 避難完了（進行：3学年主任、1学年主任）

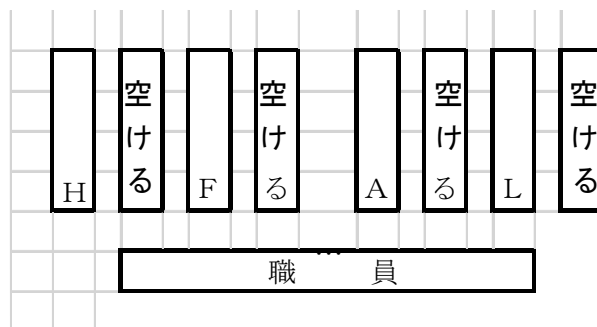
ア 体育館（前方2年生、後方3年生）、
武道場（1年生）集合。

イ 整列体系は全校集会と同じ。

ウ 消防署職員による講評

エ 校長による謝辞

オ 閉会、諸連絡（校内へ入る際の指導）



5 詳細（職員配布は3までの1ページのみ。防災マニュアルから）

※ 担当不在でも他の職員で臨機応変に対応できるように確認すること。

	担当者	内 容
通報 消火	第一 発見者 事務部 消火班	<p>1 11時35分発生。第一発見者は火災警報ベルを押し、事務に連絡をする。その後、火災に応じて初期消火または避難をする。火災現場に近い職員は屋内消火栓もしくは消火器を使用し消火を行う。</p> <p>消火班の職員は、屋内消火栓もしくは消火器を持って速やかに火災現場まで行き消火している現場職員と引き継ぐ。</p> <p>係りの生徒は、避難後必要に応じて担当の指示で初期消火を行う。</p> <p>※訓練では、省略し消火実技指導に代える。</p> <p>※訓練ではベルを押し、事務に連絡した後に初期消火状況を見て避難する。</p> <p>2 事務部は火災の状況確認に生活経営科調理室へ行き、近くの火災報知機の電話や近くの職員室の電話で事務室へ連絡する。</p> <p>3 事務長は火災の連絡を受け次第、消防署（119）へ緊急連絡を事務職員に指示する。</p>
放送	事務部	<p>1 地震がおさまり、火災が発生したと想定し、避難するように放送で指示する。</p> <p>【放送内容】（落ち着いて『 』内の言葉をゆっくり2回指示する）</p> <p>『地震が収まりました。校舎の安全点検を行っています。しばらくそのまま待機してください。』</p> <p>『生活経営科調理室で火災が発生しました。生徒は先生の指示に従って落ち着いて、速やかに体育館へ避難してください。』</p> <p>※地震の効果音は訓練用CD（担当：金子ふ）を用意する。</p>
安否 確認 ・ 避難 誘導	全職員	<p>1 緊急地震速報受信から地震がおさまるまでの対応</p> <p>「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ 屋内…頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所へ避難。 屋外…落石や倒壊などの被害を受けない安全な場所へ避難。</p> <p>2 火災発生時の対応</p> <p>放送の指示で、迅速に体育館に避難させる。</p> <p>(1) 注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押さない、駆けない、喋らない、戻らない。（お・か・し・も） ・所持品は持たない。 ・手やハンカチで口を押さえ避難する。 ・車いすや松葉杖など避難しにくい人の避難補助をする。 <p>(2) 職員の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ルートに立ち、生徒が安全に避難できるよう誘導。 ・教室やトイレに残っている生徒がいないか確認。 ・教室、廊下の窓は閉め、電気を消す。 <p>※訓練では、盗難防止のため、貴重品は持って出る。</p> <p>※避難経路の説明については、6に記載。</p> <p>※火災発生場所を避けて避難すること。</p>
消防 誘導	事務部	<p>消防車を火災現場まで誘導する。（経路は令和4年度学校経営案P.88）</p> <p>※訓練では、省略し体育館に避難。</p>

係	担当者	内 容
搬出	各学科	1 非常持出しの搬出
	主任 3年生 (全クラス)	2 搬出後の監視・延焼等の監視 3 生徒は、避難後必要に応じて係りの指示で非常持出しの搬出を行う。 ※訓練では、省略し体育館に避難。
救護	岡野 橋口	負傷者の救護を行う。救急患者の場合は、病院に連絡する。 ※訓練では、省略し体育館に避難。

6 避難経路

地震による建物倒壊や二次災害の心配が少なく、火災発生場所にできるだけ近づかないような経路で体育館まで避難する。

7 実技指導

(1) 内容

上球磨消防署員による体育館前方の屋内消火栓を使った初期消火の実技指導などを行う。

(2) 対象

各学年代表（1人）※代表は列の先頭に並ばせてください。

8 その他

(1) 放送準備（放送機器の設置・撤去）

担当 池田し・金子ふ

(2) 訓練時気象観測（天候・風位・風速・気温・湿度）

担当 竹本

(3) 関係機関への事前連絡

上球磨消防組合消防本部 4 2 - 3 1 8 1

人吉防災 2 4 - 0 1 1 9

担当 竹本